

再生可能エネ促進 牧之原市が挑む

「浜岡永久停止」市長訴え

牧之原市で再生可能エネルギーの導入が進んでいる。隣の御前崎市にある中部電力浜岡原発に対して、西原茂樹市長は「永久停止」を訴え、「再生可能エネルギーの活用」を掲げてきた。東京電力福島第一原発事故から間もなく5年、牧之原の挑戦は未来を開けるだろうか。

太陽光・風力… 地の利に参入次々

御前崎市と接する牧之原市地頭方地区。南向き斜面に、びっしりと太陽電池パネルが並んでいる。パチンコチェーン・コンコルドグループを運営する新日邦(藤枝市、飯塚邦弘社長)のメガソーラー「牧之原市地頭方太陽光発電所」だ。約31畝の敷地で昨年3月、1期工事分のパネル3万8500枚(出力9950キロワット)が発電を開始した。全量を中部電力

に売電する。今月10日には2期工事分のパネル2万6558枚(出力6280キロワット)が試験運転を始める。同社は3期工事も検討中だ。新日邦太陽光発電事業部の市川謙悟技術顧問は「抜群の日照環境が何よりも魅力。送電線も隣接しており、もってこいの立地条件だった。発電開始から1年になるが、想定を超える成績を上げている」と話す。気象庁の統計によると、牧之原市に最も近い観測点の御前崎では年間日照時間の平年値(1981〜2010年)が2230・6時間。全国154カ所の主要観測点中第1位だ。自動車メーカーのスズキも市内の工場に近い中里工業団地などに出力2万キロワットの太陽光発電所を建設中だ。

■牧之原市の再生可能エネルギー発電所

エネルギー	事業者	出力(kW)	運転開始(予定含む)
太陽光	新日邦	9950	2015年3月
	スズキ	20000	16年中
風力	白川電気土木	9500	06~09年
バイオガス	アーキアエナジー	650	16年10月

市内では、電気設備工事会社「白川電気土木」(名古屋市中区)の風力発電所「落居ウインドファーム」(出力9500キロワット)も稼働中。牧之原台地には海からの強い風が吹く。御前崎の年平均風速は約5.5メートルで、12月から2月の月平均は風力発電に理想とされる6メートルを超える。

市が経済産業省の公表資料を集計した結果、15年10月時点の再生可能エネルギーの導入見込みは、年間発電量約1億840万キロワット時。市内全世帯(約1万6千戸)の使用電力量の約1・9倍に達したという。さらに、リサイクル事業を手がける「アーキアエナジー」(東京都)が、廃棄食品からメタンガスを発生させて燃料にする牧之原バイオガス発電所(出力650キロワット)の建設を進めている。発電開始は10月予定だ。

「発電が不安定」「価格が割高」

懐疑根強く論争続く

福島第一原発事故で原発への信頼が失われた一方、再生可能エネルギーが普及してきている。しかし、再生可能エネルギーへの懐疑は根強くある。1月30日に御前崎市市民会館で「日本電気協会これからのエネルギー委員会」が開いたフォーラム。経済評論家の勝間和代氏、地球環境産業技術研究機構理事の山地憲治氏が290人の参加者を前に、太陽光や風力が天気任せで安定しないことや価格が割高であることなどを指摘した。火力発電用に使った液化天然ガス(LNG)や石油、石炭などの燃料輸入が増えて、富が海外に流れているとして、原発のリスクは認めたと主張する。

「浜岡原発の永久停止を主張すると、『じゃあ電気をどうするのか』と言われる」。西原市長は再生可能エネルギーの導入を進める理由をそう話す。市は13年には導入促進を掲げるエネルギータウン構想を策定。バイオガス発電所では、事業者と銀行との間の橋渡しや、事業者と住民との間の仲立ちをするなど立地に向けて支援した。

(岡田和彦)

新日邦牧之原市地頭方太陽光発電所。浜岡原発から4kmの距離に位置する。|| 牧之原市地頭方

